

様式 2

平成 26 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の重点目標	1. キャリア教育を推進し、意欲を持って進路実現に向かう生徒を育てる。 2. 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3. 生徒の学ぶ姿勢の向上を図り、基礎・基本の定着に努める。 4. 地域と密接に関わり、地域から応援してもらえる学校づくりに努める。
---------------------------	--	-----------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月			総合
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	評価
1. 自らの将来について主体的に考え、真剣に取り組む生徒の育成	○自己理解を深め、望ましい進路意識を育てるキャリア教育の更なる充実。	○世情に影響されることなく安定した成果を継続しており、本校独自のキャリア教育は完全に定着し、伝統となりつつある。 ○早期の進路実現100%	○進路実現100%。 ○2年次末までの進路志望未定者10%以下。 ○保護者を巻き込んだキャリア教育の推進。	○個別面談の充実を図って個々の生徒の状況を把握し、意識の向上に努める。 ○1クラス複数指導体制で臨み、全職員による指導の充実を図る。				
	○進路実現のための系統的な指導方法の充実。	○進路実現100%を裏打する安定した指導方法が確率・定着しつつある。	○進路情報を第3学年以外の学年とも共有し、活用可能にする	○進路行事ごとの目的認識を各学年単位で共有し、キャリア教育の指導方法を充実させていく。				
2. 社会人としての基礎力の育成	○自身の生活について、自らを律して、考え、行動することができる生徒の育成。	○身だしなみに対する意識は向上したが、毎月の頭髮服装検査では再検査者数はクラス平均11.6人と増加してしまった。	○細かな部分まで指導できるようになったので、服装検査の再点検者数はクラス平均8人以内に作る。	○2・3年生へはもちろんのことであるが、特に1年生への全職員による日常的なきめ細やかな、指導による基本的生活習慣の確立と校則の徹底を図る。				
	○部活動やボランティア活動をおした人間形成の推進。	○部活動加入率は全校で95.6%で、100%まであと一息である。	○部活動加入率が全校で100%。	○未加入者だけでなく「幽霊部員」的な生徒も含めた新しい対策を講じる。				
	○豊かな人間関係づくりの推進。	○生徒会主催でケータイ・インターネットマナー研修会が実施できるようになった。	○携帯電話等を介した生徒の問題行動発生回数を0とする。	○生徒会主催の「ケータイ・インターネットマナー教育」の取り組みをさらに推進して、人権意識を高める。				
3. 学力の定着と学ぶ姿勢の育成	○進路実現に向けた学力の定着。	○リスタート学習・ワッツ検定の取り組みを各教科で進めているが、学校側の取組みに比べて、学習の必要性を感じている生徒は相変わらず少ないままである。	○リスタート学習・ワッツ検定を活用して、基礎学力を定着させる。 ○進学に対応できる学力向上の取り組みを充実させる。	○リスタート学習・ワッツ検定の進捗状況を検証し、学校全体のシステムの充実を図る。 ○公開授業や研究授業月間を活用して岩美高生徒に有効な授業力向上を図る。				
	○毎日1時間以上の家庭学習の習慣化の促進。	○家庭学習時間は減少しており平均30分未満の生徒は半分以上に増加。	○家庭学習に習慣的に取り組む姿勢を育成する。	○スケジュール管理と平行して、困難ではあるが、進路意識を高めて学習モチベーションを形成していく。				
4. 地域に直結した教育の推進	○今年度から本格的に始まる、文科省指定の研究開発「地域と直結したジオパーク教育」の実践と研究の推進。	○特例教育課程は完成済みで、あとは第1学年からの実施を待つみの状態である。	○本年度の教育課程を実施してその成果を検証し、内容の修正を加えながら、来年度の学校設定科目の完成につなげる。	○計画的にジオ研究推進委員会の活動を推進する。 ○実践するにあたって、専門家や岩美町の方々の協力を得て、地域に密着した教育活動を展開していく。				

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]